

商学部における特色ある学部教育の補助「見学調査」 報告書

テーマ	ベルツと伊香保温泉										
科目名	II、国際教養演習I・II、グローバル・ステューデント育成講座、ドイツ語（e3）1セメ										
担当教員	高次 裕										
調査先	群馬県渋川市伊香保										
調査日	2025年9月9日(火)										
参加学生数	1 年生		名	2 年生	4 名	3 年生	5 名	4 年生		名	
										計	9 名

調査の趣旨（目的）

授業では日本文化について日本人が論じたもの、ドイツ人（あるいは他の欧米人）が論じたものを扱っている。明治期に日本に来たドイツ人エルヴィン・ベルツはいわゆるお雇い外国人の一人で、東京帝国大学教授として医学を教えた。その講義は森鷗外も聴いていた。ベルツは日本各地の温泉地を訪れており伊香保温泉にも滞在し、温泉を分析、当時の政府に助言もした。伊香保にはベルツ像があり、本調査ではベルツの足跡を実地に確かめ知見を深める。

調査結果

本見学調査ではベルツの足跡を実地に確かめ知見を深めた。事前に伊香保温泉街の歴史とベルツについてある程度把握したうえで、有名な石段街を中心に温泉街の様子を見学し、ベルツが「源泉湯元への道路を手入れせねばならない」とした道を歩いた。そして途中にある飲泉所でベルツも飲んだであろう伊香保の温泉を実際に試飲し、源泉噴出口まで行きベルツ像を見学した。温泉街だけでなく、『ベルツの日記』（岩波文庫）で言及されている榛名湖へも足を延ばした。見学調査後の振り返りでは学生たちから「その土地の歴史を踏まえながら見て回ること」や「今回のように目的意識を持って訪れる」ことで「普段なんとなく観光地を訪れるのとは見えてくるものが違うと感じた」という意見が出た。実地に見学調査をすることの重要性を実感することができた良い機会となった。また、明治期に日本を訪れたドイツ人が日本の有名な温泉地に大きな影響を与えているという日独交流史の観点からも知見を深めることができた。